



Line Up

- 題字……………北村雅子様
- 2-3 ……………『キッズクラブひまわり』管理者の宮崎です
- 4-5 ……………『キッチンのはら』の活動について
- 6-7 ……………スウェーデン開催、アール・ブリュット展報告
- 8 ……………本人の意思を尊重した地域生活のために
- 9 ……………『すだちの里』に野菜と商品の販売に行ってきました
- 10……………『星の里』26回目夏祭り
- 11……………一生懸命に生きていこう・菜の花畑



平成 30 年 (2018)
8 月発行 25 号

みなさんこんにちは！ 管理者の宮崎です

4月から八ヶ岳名水会の仲間に入れていただいた『キッズクラブひまわり』です。何をしている事業所かと言つと…一言でいえば児童福祉法に基づく障害児通所支援事業所で、3つの通所支援「児童発達支援」「放課後等デイサービス」「保育所等訪問支援」と地域支援事業の日中一時支援、移動支援、成人の余暇活動「大人の放課後クラブ」の運営をしています。

児童発達支援、通称「たけのMUNGUN」は就学前の療育が必要な乳幼児が対象で、小集団の中で一人一人の発達に合わせた療育を行います。『八岳心理リハビリテーション研究所』飯田先生の動作法、高見澤先生の作業療法なども取り入れ、山梨県立大学准教授の里見先生にスーパーバイズをお願いします。

日常の活動は、「まずは体作りから」と、お散歩や粗大運動、心理担当の先生とお勉強（ソーシャル・スキル・トレーニングや個別課題）、季節行事、放課後デイとの縦割り保育など、ゆったりゆったりの中でも「自分のことは自分で」「いろいろなことに興味をもってチャレンジする」「心身ともに健康な子」を目指しています。



まいにち
たのしくかつどう
してるよ！！



放課後等デイサービス、通称「キッズクラブひまわり」は特別支援学校や支援学級に通う小学1年生から高等部3年生までが下校後利用します。

平日は曜日によって活動が設定されていて、集団活動、個別活動の他に外部講師による習字、音楽療法、エアロビクス、リトミック、アート活動、動作法などが体験できます。また、夏、冬、春の長期休みは季節行事や外出など長期休みならではの活動を用意しています。

保育所等訪問支援は利用児が通う保育園、小学校、学童保育所などを訪問し、集団生活になじめよう環境調整や、対応方法などをレクチャーします。

いずれの事業も、本人の状態と本人・保護者の希望を取り入れた個別支援計画に基づいて支援し、半年ごとのモニタリングで見直し、更新します。

また、利用児はそれぞれ学校、保育園、リハビリ、医療機関等に通っているため、1人1人の共通理解と支援の方向性の確認のために各関係機関との担当者会議が度々開かれます。

「キッズクラブひまわり」の事業は、幼いころから10年先をイメージしながら個々の育ちと家族をバックアップし、本人が出来ることを増やしながらか大人への支援にバトンタッチしていく大切な事業だと思っています。



職員紹介

管理者・訪問支援員……………宮崎 亮子

たけのこ GUNGUN

児童発達支援管理責任者……………新垣 安子

保育士……………伊藤 友裕

児童指導員（心理担当）……………宮崎 郁江

キッズクラブひまわり

児童発達支援管理責任者……………高橋 昌也

児童指導員……………錦見 裕子

保育士……………宮坂 正介

保育士……………山坂 奈津美

児童指導員（嘱託）……………広瀬 勝子

児童指導員（非常勤）……………高橋 美子

支援員（非常勤）……………関根 祐二

事務 堀内 義彦 小澤 健昭

用務 小松 亮太



のはら楽団A型事業所
『キッチンののはら』
のはら楽団
由井 美涼

『キッチンののはら』では現在、就労継続A型の利用者さん3名、就労移行の利用者さん1名、スタッフ2名の計6名が在籍しています。作業内容としては、主に各事業所の利用者と希望するスタッフの給食が100食近く、GHの夕食の弁当、外部へのお弁当の販売、配達を手掛けており、120〜150食ほどを毎日、11時半出荷に向けて作業しています。そのため午前中は常に時間との闘いです。すべてのお客様に時間までに確実に配食できるように手早く作業に取り組んでいます。午後からは、各事業所から返却された食器の洗浄、調理場の掃除、翌日の仕込みなどを中心に行っています。

これが『キッチンののはら』の1日の流れです。

ここで『キッチンののはら』の主体である4人の利用者さんより、現在どういったモチベーションで働いているか、今後の目標などを聞いてみました。

・A型利用者さん（男性）「自分が成長しなければならぬ期間として仕事をしています。具体的には調理師の免許やサイドビジネスを学ぶ一人でも生きていけるようにしたいです。」

・A型利用者さん（女性）「ここができた当初から比べると仕事内容も人も賑やかになってきて場の雰囲気も充実してきてとても良いです。仕事内容は色々が増え大変な部分や覚えることはあるけど皆さんと協力して仕事しています。そこで誰かミスをしたときは補充したり気遣ってあげられればと思います。今後の目標はこれから独立していったり料理を作ることがあると思うので包丁を使うのを慣らしていきたいと思っています。」



・A型利用者さん（男性）「今のままのモチベーションで一年間仕事をする。一年間仕事をしたら、一般就労するか職員にしてみたいことが目標です。」

・就労移行利用者さん（女性）「私が出勤するときはみんな材料が仕上がっているのでスムーズに仕事ができる。これからは時間をかけず、素早くできるようにしたい。」

〔ヤマト福祉財団主催の

「夢へのかけ橋」実践塾〕

キッチンのほら 清水 和恵

昨年10月より全国から募った8名と共に2年間の実践塾に参加しています。

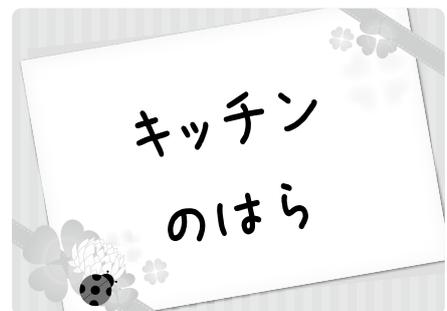
この塾では「経済的自立力を備えた新しい福祉」に向かって行動を起こし、利用者の様々な夢を叶え、実現していくことを目的とし、現在支給している給料アップを目標にPDCAサイクルを導入して売上を伸ばすことをプロデュースしています。販路拡大などの営業に関する新規事業や改善についてプランを作成し、自分たちの事業所の毎月の進歩や、塾に参加している他の8法人の進歩をチェックし互いに競争、高め合い取り組んでいます。

この塾のなかで『キッチンのほら』では、各事業所や地域の方々との繋がりを意識し、『春の陽』で取れた野菜を中心に、近隣農家さんの仕入れ野菜の皮むきやカットなどを『春の陽』の就労継続B型の仕事に、また、トンカツの衣付け、コロッケやハンバーグなどの加工を『まめのはな』の仕事としています。

こうすることで『キッチンのほら』での調理

時間を短縮するとともに就労継続B型の給料にも繋げています。また、近隣農家さんの野菜で調理した他とはひと味違ったお弁当を農家さんに食べていただき、野菜を提供していただいたお礼と併せて『キッチンのほら』のお弁当をご賞味いただいております。さらに市役所や農業大学校、高齢者宅や一般宅など北杜市内の可能な範囲で弁当を宅配・販売し、着実に販路拡大に繋げています。

この塾を通して様々な困難・課題と向き合い、できない言い訳をやる理由に変え、あと一年、利用者・スタッフ共に日々精進して参ります。また、4人の『キッチンのほら』のメンバーの目標達成と成長を皆様で見守り支えてほしいと思います。これからも様々なことに挑戦していきますので応援宜しくお願い致します！



スウェーデン開催、 アール・ブリュット展報告

法人事務局 坂本 一真

サインペンの太さで丁寧の色を並べて表現された「かかし」、紙いっばいにバラバラに描かれた「人体」、羊毛フェルトで器用に編みこまれた「コマドリ」……。カラフルな色づかいから鮮やかさを、繰り返される規則的なデザインからグロテスクさを感じさせられました。

6～7月にスウェーデン・ストックホルムのギャラリーで開かれた展覧会「アール・ブリュット 日本とスウェーデン展」。山梨県内を含む両国のアール・ブリュット作家43人が計141点の絵画やオブジェを並べました。



展覧会場「エズヴィック・コンストハル」の外観

展覧会は、自由な文化芸術活動の振興と日本とスウェーデンの国交150周年を記念して、文化庁と全国の社会福祉法人などで行く「障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会」が開催。会期は6月3日から7月6日までの約1カ月間でした。責任者を意味する「キュレーター」は両国合わせて3人で、日本からは代表として、元了徳寺大学助手で、

当法人企画事業部の瀧澤聰さんが務めました。

会場は、かつて馬小屋として使われていた奥行きのあるギャラリー。瀧澤さんによると、細長い会場の特徴を生かして作品の魅力を引き立てようと、作品選びや作品の並べ方などに注意したとのこと。 「両国の記念すべき年の開催で、半年間展覧会にずっと頭を悩ませていました」（瀧澤さん）。

初日となった6月3日は関係者ら約200人が来場。「障害者の文化芸術の可能性について」と題した記念対談の後、オープニングセレモニーを開き、在スウェーデン日本国大使や地元自治体の関係者がテープカットをして開幕を祝いました。瀧澤さんは来場者に向け、日本の作家や作品について会場を周りながら紹介しました。展覧会を成功裏に終え、瀧澤さんは「国、言葉の壁を越え、作品そのものが持



日本の作品を眺める来場者

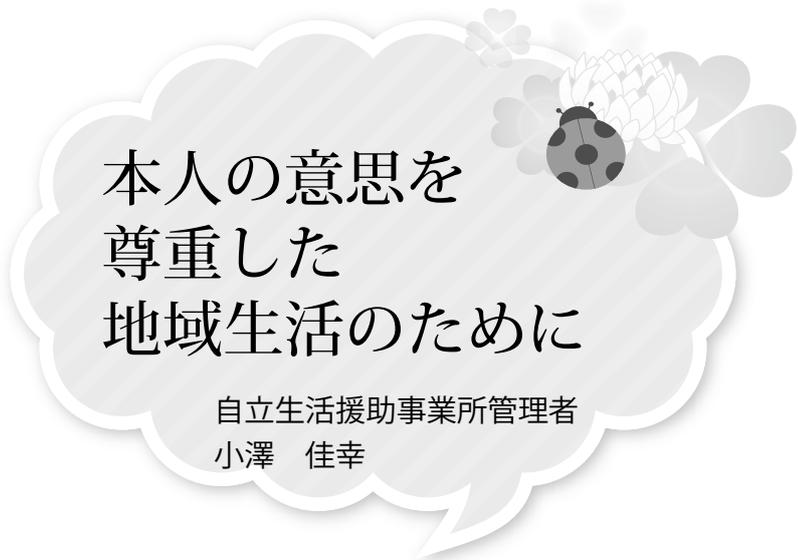
つアール・ブリュットの可能性を改めて感じた。日頃から作家を支えてくれている多くの関係者に感謝したい」と話しています。

偶然にも「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が開幕2日前の6月1日

に衆議院委員会で、同7日に同院本会議で可決、同13日に公布されました。展覧会が2020年東京パラリンピックに向けた活動の機運を高める一つになったと確信しています。



多くの人でにぎわう展覧会場



本人の意思を 尊重した 地域生活のために

自立生活援助事業所管理者
小澤 佳幸

障害者総合支援法改正により、平成30年4月から新サービス・自立生活援助が施行されました。それに伴い、平成30年5月から『相談支援事業所らいいむ』にて、自立生活援助を併設型として開設いたしました。

自立生活援助とは、障害者支援施設やグループホーム・精神科病院等から、地域での一人暮らしへの移行を希望する方が対象とな



るサービスです。また、現に一人暮らしをしており、自立生活援助による支援が必要な方、障害・疾病等を有する家族と同居しており（障害者同士で結婚している場合も含む）家族による支援が見込めないため、実質的に一人暮らしと同様の状況であり、自立生活援助によるサービスが必要な方なども含まれます。

支援内容は、定期的に利用者さんの居宅を訪問し、食事・洗濯・掃除などに課題はないか、公共料金や家賃に滞納はないか、体調に



変化はないか、通院しているか、地域住民との関係は良好か、などについて確認を行ない、必要な助言や医療機関等との連絡調整を行います。定期的な訪問だけではなく、利用者さんからの相談、要請があった際は、訪問・電話・メール等による随時の対応も行ないます。障害者が安心して地域で生活が送れるように、ご本人の意思を尊重した地域生活を支援していききたいと考えております。

去る7月28日（土）、東京都杉並区にありま
す障害者支援施設『すだちの里』に、春の陽
などで作っている野菜と商品の販売に行っ
てきました。

八ヶ岳名水会では、農業活動として作物の
生産を行っておりますが、それだけにとどま
らず、そうした作物をジュースやソースなど
の商品に加工し、新鮮な野菜と一緒に販売し
ています。

『すだちの里』に 野菜と商品の販売に 行ってきました

春の陽 浅井 真



『すだちの里』での販売は今年で7年目にな
ります。だいたい2か月に一回、『すだちの
里』が運営しているベーカリーの横にブー
スを作らせていただいて販売を行っております。
この日は台風が接近しているあいにくの天候
だったため、普段よりお客さんは少なめでし
たが、それでも、トマトやナスといった取れ
立ての旬の野菜はあつという間に売れていき
ました。また、常連の方も来てくださり、こ
の日も玄米やお味噌など決まった商品をお買
い求めいただきました。

私たちにとって『すだちの里』での販売は、
自分たちが作った野菜や商品を県外で販売で
きる貴重な機会であると同時に、『すだちの里』

にとっても、ベーカリーでパンを買うついで
に八ヶ岳の麓で作られた作物を購入できる機
会として、お互いにとっていい関係を築きな
がら続けていきます。

利用者さんや地域の皆様といっしょに精魂
込めて作っている野菜や商品です。だからこ
そ、ただ作るだけではなく、それをどのよう
に販売して、地域の皆様の利益や利用者さん
の工賃へ還元していくのかということにも、
私たちは真剣に取り組んでいます。

こうした販売は、他にも周辺の道の駅や、各
種地域でのイベントのときにも行っておりま
す。もしも、そうした際に私たちが作った野菜
や商品を目にする機会がありましたら、ぜひお
買い求めいただき感想などお聞かせいただけれ
ばと思います。よろしくお願ひします。



皆様の支えで成し得た26回目

星の里 小松 央征

今年も無事に夏祭りを開催し、終えることができました。連日の悪天候の中心配をしていた天気も、当日は夏祭りが終わるのを待っていたかのように、始めから終わりまで、晴れが続き最後の花火の時間には雨が少量降ったものの、気持ちの良い天気の中過ごすことができました。これもひとえに皆様の行いのお陰だと感じています。

『星の里』の夏祭りを行うにあたり、様々な地域の方・法人様・支援員・利用者さんの多大なご協力がありました。どれか一つが欠けても、無事に夏祭りを開催することはできず、ここまで充実したお祭りには成し得なかったと思います。

そのご協力の多大さを考えると、ひとえに感謝の言葉しかありません。ご協力してくださいました皆様、本当にありがとうございます。

通常の業務の中では、ここまで綿密に多種多様な方達と楽しく関わることや、交流しているということを感じる機会はありません。みんなで作り上げるお祭りという特別な空間だからこそ、目に見えて再認識が改めてできたように感

じます。また、その関わりや機会をこれで終わりにしてしまうのではなく、通常業務の中でも続けていきたいと思えますし、続けていくことが夏祭りを主催した私たちの役割なのではないかと考えています。

今後も夏祭りを通して見せてくれた利用者さんの笑顔を糧に頑張っていきたいと思えます。ありがとうございました。



「一生懸命に生きていく」

松本 はなよ

(菜の花利用者 松本 誠さん母)

重い障害があり、小さい頃から行政の支援を受ける息子は、もう四十五歳になりました。

今は市内の障害者支援施設「菜の花」のお世話になっています。息子は、大分慣れてきたようで、朝夕の送迎も嫌がることもなく、出掛けていきます。

スタッフの皆さんには、家族も気づかない息子の良い所を見つけて引き出してくださり、本当に感謝しています。世の役に立たず、自分のことでも、きずに人さまの頼りを受けるだけで生きていても仕方ない。息子をそんなふうに思う時もありましたが、息子自身、この世に生を受け、一生懸命生き

ていこうと思っているだろうと考え、命ある限りこの子に寄り添って行きま

す。
「生きるも死ぬもこの子と自分は一緒だ」と言っていたお父さんは3月(昨年)、逝ってしまいました。空で見守ってくれていると思います。

隣近所の方は、私がいなくても息子に声を掛けてくれます。わかるのか、オルガンやギターをたたいていても振り向くそうです。息子・誠に関わりのある皆さま、末永くよろしくお願いいたします。

平成二十九年八月二十日「山日新聞ひとこと欄」より

詩 「菜の花畑」

松本 はなよ

大きな畑の一面に 菜の花が咲いたよ
白い蝶が飛んでいる

すかして見れば数えきれない蝶々だよ

雨上がり菜の花畑の上に 虹の橋

虹の橋渡った蝶は 虹色だ

夜は蝶々どこへ行く

明日もおいで待っている

黄色の蝶々も飛んできた

菜の花にとまったよ

同じ色だよ 見うしなう

絨毯のような花の上

皆おいでよ

おどって遊ぼうよ



ありがとうございました！

○表紙を飾ってくれた方

八ヶ岳名水会 アート部門顧問

北村 雅子 様

素敵なアートワークをありがとうございました！

平成29年度第三者委員会 苦情解決についての報告

去る7月24日、法人第三者委員会が開かれました。法人各事業所より、平成29年度の苦情解決についての報告と第三者委員より講評がありました。平成29年度は第三者委員会に挙げて審議する案件はございませんでした。

イベント情報

やさいまつりが行われます！

日時：平成30年11月10日（土）

場所：日野春學舎

編集後記

一生懸命に頑張っても、思うようにできなかつたり、結果がついてこないと感じ込んでしまつてあると思います。こんなとき私がやってみることは、ちょっと立ち止まり振り返ってみます。するといろいろなことを成し遂げながら進んでいくことに気付くことができます。

上杉鷹山の名言の中に「為せば成る…」とあるが、実はそれよりも前に武田信玄が「為せば成る為さねば成らぬ。成る業を成らぬと捨てつる人の儂さ。」と詠っている。上杉鷹山はこれを変えているといわれています。

意味は「人が何かを為し遂げようという意思を持って行動すれば、何事も達成に向かうのである。ただ待っていて、何も行動を起こさなければ良い結果には結びつかない。頑張ればできることを頑張らないで、あきらめて何もしないことは愚かなことだ。」

私は頑張つて進んでいることは良い結果に繋がる因であり、何もしないことのほうが現状を変えられないことと受け取っている…今頑張つて結果が出ていなかったとしても、諦めずに邁進して結果を出していきたいと思えます。

魚

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@y-meisui.or.jp

URL y-meisui.or.jp/

印刷 株式会社ピー・エス・ワイ

広報委員スタッフ

廣瀬政光 穂坂雄太（菜の花）由井美涼（のはら楽団）遠山萌（星の里）

江口紗枝実 中仙道涼子（春の陽）魚多和輝（ぼーら）河手知子 小松寛明（陽だまり）

錦見祐治（相談部）相吉謙輔（企画事業部）奥村仁美（法人事務局）

